

チョイソコおのくめ

はじめに

高齢になっても住み慣れた町で暮らし続けるためには、松山市地域公共交通網形成計画 3.地域の現状 に記載のあるように、公共交通の利用環境の向上が必要不可欠です。

私たちの住む小野地区・久米地区は、小野地区が小野町・北梅本町・南梅本町・水泥町・平井町で構成されており、久米地区は北久米町・来住町・久米窪田町・高井町・福音寺町・南久米町・南土居町・鷹子町で構成されています。人口は小野・久米地区合わせておよそ 47,000 人、うち 75 歳以上人口がおよそ 7,400 人。松山市地域公共交通網形成計画によると、不便地域・空白地域の人口比率が高く、22～44%に増加しています。

3. 地域の現状

3.2.2 まちづくりの現状と課題

項 目	現 状	課 題
居住や都市機能施設を誘導 (誘導区域内)	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化の進展により、日常の移動が容易にできない人が増加してくると見込まれる。 公共交通の利用圏内であっても、人口密度の低下に伴い利用者の減少が見込まれる地域では、便数の減少や路線の廃止等のサービス低下が懸念される。 	<p>公共交通の利用環境の向上に向けた施策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通軸の強化 路線再編の検討 利便性の向上 利用促進策の推進 コミュニティ交通の導入検討
生活サービス施設の利便性・持続可能性	<ul style="list-style-type: none"> 人口密度の低下が見込まれる地域に立地する施設は、利用者の減少に伴い、施設の維持が困難になってくることが予想される。 施設の周辺地域では、各種サービスを容易に受けることができなくなることが懸念される。 	
高齢者の福祉・健康	<ul style="list-style-type: none"> 人口が減少する地域では、公共交通の維持が困難となり、高齢者等の外出機会が低下する可能性がある。 高齢者が増加する地域で、日常生活に必要な施設が近くにない地域では、サービスの利便性が低下することが懸念される。 	

地域区分	地区	現 状	課 題 (下線は優先して対応する課題)	主な課題に 対する 解決の方向性
南東部	<ul style="list-style-type: none"> ・素鷲 ・桑原 ・久米 ・小野 ・浮穴 ・石井 計 6 地区	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は減少傾向（公共交通利用者減少） ・高齢化の進展（32～36%に増加） ・伊予鉄道、バス路線が通過 ・拠点地区を設定 ・居住誘導区域は素鷲の面積比（約 90%）が大きいものの、其他地区は 50%以下 ・素鷲以外の地区では不便地域、空白地域の人口比率が高い（22～44%に増加） 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利用促進 ・高齢者への移動対応 ・拠点地区での鉄道、バス等との乗継ぎ ・不便地域、空白地域の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域状況に応じた公共交通の再編（不便地域、空白地域を対象）

参考：松山市地域公共交通網形成計画

5. 基本方針

小野久米地区内には、松山市地域公共交通網形成計画 各地域の公共交通の現況・課題の表（上図）にあるように、高齢者が気軽に利用できる移動手段の確保や、不便地域・空白地域の状況に応じた公共交通の再編など、公共交通に関して対応すべき課題が多く存在します。私たちは、住み慣れた町で暮らし続けるために早急に交通環境を整える必要があると考え、今既に移動に困っている人・将来的に移動が困難になる人への手当てとして、久枝地区での先例がある「チョイソコ」を地域に導入し、おでかけ支援を行うことにしました。

地域住民の移動の自由が保障されることによって生まれる相乗効果は計り知れません。加齢に伴い心身機能が弱っていく高齢者が自由に外出を愉しむことで、要介護状態に近くスピードを緩やかにし、フレイルの予防や健康寿命の延伸につながる可能性があります。

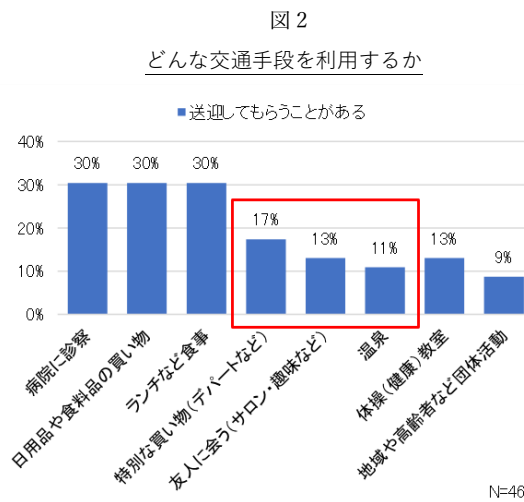
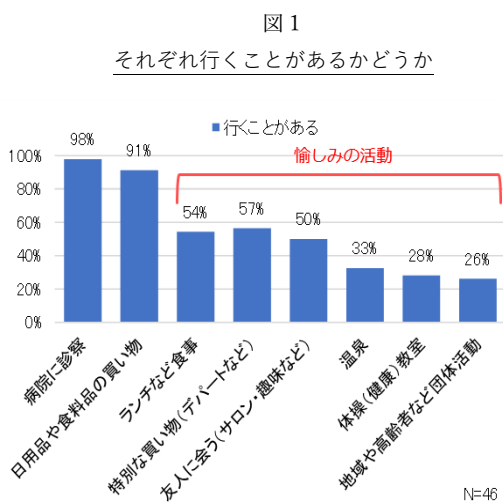
そして、企業で一番重要な働き手である世代は、老親と向き合う世代でもあります。高齢者の健康寿命が延びるということは、企業で重要な働き手である世代の住民が安心して働くことにもつながると考えられます。

私たちは、移動手段の確保はあくまでも「まちづくり」の一環であり、まち全体の良い循環を生むための出発点になることを目指し活動を行っています。今後は同じ思いをもった仲間を増やしながら運営を行っていくことで、これまで以上に多くの人に「豊かな移動」をおすすめでき、まち全体の「豊かな暮らし」の実現に近づけると考えています。

1. 現状調査

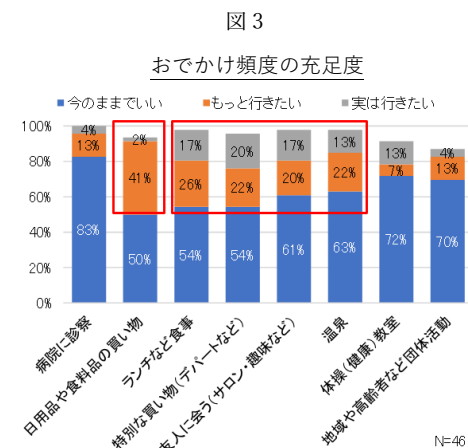
小野・久米地区住民の外出状況を把握するため、大阪工業大学 西堀准教授をはじめとした関係者と共に住民に対してアンケート調査を実施しました。

まず、それぞれのおでかけ内容に対して、行くことがあるかどうか（図1）、また、そのおでかけにどのような交通手段を利用して移動しているか（図2）を確認しました。診察や買い物など必要不可欠なおでかけは外出率が高いですが、ランチ・特別な買い物・友人に会う・温泉などの「楽しみの活動」は外出率が3～5割であり、特別な買い物・友人に会う・温泉については、移動手段として送迎を利用している人が少ないことが分かります。楽しみの活動をするために送迎を頼むことへの遠慮があったり、楽しみの活動をしたくても外出手段がないため出来ないといった背景があるのではないのでしょうか。



出所：チョイソコおのくめ会員 ヒアリング調査結果速報

また、おでかけ頻度の充足度に関する質問（図3）では、日常的な買い物や楽しみの活動に対して「もっと行きたい」「実は行きたい」と回答している人の割合が高くなっています。おでかけをする意欲はありますが、交通手段がないため行きたい時に行きたいところへ行けていない状態であることが考えられます。



出所：チョイソコおのくめ会員 ヒアリング調査結果速報

2. 先例となるチョイソコひさえだについて

2021年1月から松山市久枝地区で運行しているチョイソコひさえだの視察や運営メンバーへのヒアリングを行い、現在小野・久米地区にある移動の悩みの解決手段となるか、また小野久米地区での運行が可能かを探りました。

① チョイソコひさえだの運行形態の確認

・利用者

久枝地区（久万ノ台・問屋町・安城寺町・東長戸1～4丁目・西長戸町・船ヶ谷町・高木町・鴨川3丁目）の住民

・停留所

主に久枝地区内に、「チョイソコひさえだ」の乗降ができる場所として、停留所を約250ヶ所設置

・運行日および運行時間

運行日は、下記を除く平日

（1）土曜日・日曜日・祝日

（2）その他天候条件や災害など安全な運行に支障がある日

（3）年末年始・夏季休暇など運行事業者と運営主体が別に定めた日

運行時間は、交通事情などによりやむを得ない場合を除き、9：00～12：00と13：00～16：00の1日6時間

②地区情報の比較

松山市久枝地区の場合		松山市小野久米地区の場合	
世帯数	9,241世帯	世帯数	22,281世帯
人口	19,990人	人口	48,003人
65歳以上人口	5,033人(25.2%)	65歳以上人口	12,981人(27.0%)
75歳以上人口	2,325人(11.6%)	75歳以上人口	6,540人(13.6%)
高齢者のみ世帯数	2,242世帯	高齢者のみ世帯数	4,315世帯
高齢者のみ世帯人口	3,420人	高齢者のみ世帯人口	6,655人
単身高齢世帯数	1,064世帯	単身高齢世帯数	1,975世帯
高齢夫婦世帯数	1,178世帯	高齢夫婦世帯数	2,340世帯
面積	4.89km ²	面積	36.33km ²
人口密度	4,089人/km ²	人口密度	1,321人/km ²
65歳以上人口密度	1,029人/km ²	65歳以上人口密度	357人/km ²
75歳以上人口密度	475人/km ²	75歳以上人口密度	180人/km ²
事業所数	1,047ヶ所	事業所数	1,711ヶ所

参照：松山市「町丁別住民基本台帳登録者数（令和5年7月1日現在）」

松山市「地区別年齢別住民基本台帳登録者数（令和5年7月1日現在）」

2020年国勢調査データ 2006年事業所・企業統計調査

小野・久米地区は、久枝地区と比べると面積が10倍近くありますが、小野地区の多くを山が占めており全域を走行する可能性は低いこと・住民が住む場所と目的地となる場所が同じ地区内にあり効率的な運行が出来ることから、車両2台でカバーできると考えました。また、小野・久米地区内には多くの事業所があり、資金面でもある程度の協力が見込めることから、小野・久米地区でのチョイソコ実現可能性は十分にあると判断しました。

③運営メンバーの確保

チョイソコの運行には、運行事業者や予約受付センターはもちろん、利用方法について説明を行う運営主体が必要です。そこで、まずはNPO法人の立ち上げを行いました。立ち上げにあたっては、「地域のために自分も何かしたい」という思いをもった有志の住民や、「地域住民があって成り立っているので、地域の方々の生活を豊かにする手段として協力したい」という事業者が集まりました。事業者からは協賛金という形で運営資金をいただいておりますが、金銭以上に知恵を出し、企業としてまちづくりに参画する姿勢をもつ事業者ばかりです。住民と企業が協働して、健康増進と孤立のない地域づくりを目指すこと、そしてなにより自分たちが住むまちのまちづくりへの参画を進めることを目的とし、「NPO法人まるっとおのくめ」として活動を始めました。

3. チョイソコおのくめの導入

チョイソコひさえだの視察と地域住民へのアンケート調査から、ドアツードアで利用できるチョイソコがあれば外出頻度を高めて愉しみの時間を増やすことができ、さらに小野・久米地区内で収支を完結させることができると判断し、チョイソコおのくめの導入を決定しました。

【チョイソコおのくめの運行形態】

① 利用者

運行範囲の性質から、利用できるのは小野地区・久米地区にお住まいの方とします。また、車両の性質から、介助の必要がなく1人で乗り降りできる方とします。

なお、現在は、特別な事情を抱える場合以外は、既存の交通事業者への配慮として、65歳以上の方に利用を限定しています。特別な事情を抱える方の場合は、運営主体（理事会）の判断によって利用可能としています。

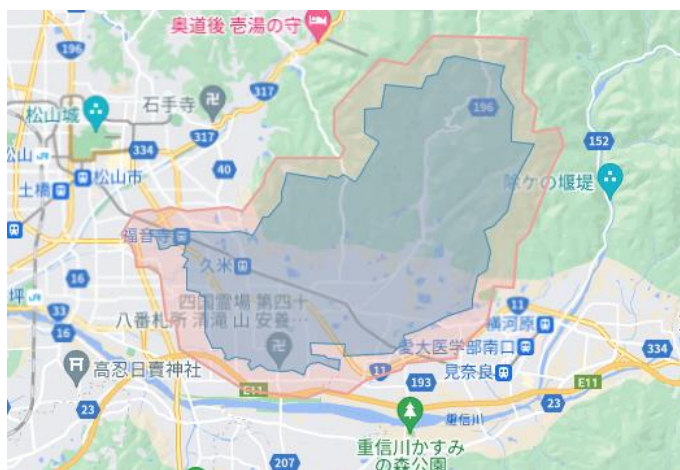
② 停留所

小野・久米地区内に、「チョイソコおのくめ」の乗降ができる場所として、停留所を約300箇所程度設置します。対象区域内の停留所の場所については状況により随時見直しますが、区域外に停留所を設置することはありません。

③対象区域

「チョイソコおのくめ」の対象区域は下図のとおりです。青色は、小野・久米地区の範囲。赤色は、小野・久米地区の周囲 500m を目安とし、周辺地区（食場町・杉立町・川の郷町・南高井町・森松町・土居町・今在家・北土居町・越智・星岡・東石井・天山・中村・小坂・枝松・東本・松末・三町・畑寺・畑寺町・東野、東温市山之内・樋口・志津川・西岡・田窪・牛渕・野田1丁目~3丁目・北野田）の一部を含めた運行範囲とします。周辺地区を運行範囲に含めることで、気軽に利用できる移動手段をもたない高齢者がおでかけしたい範囲をある程度カバーできると考えました。

図 4



④運行日および運行時間

運行日は、下記を除く平日とします。

- (1) 土曜日および日曜日
- (2) 祝日
- (3) その他天候条件や災害など安全な運行に支障がある日
- (4) 年末年始・夏季休暇など運行事業者が別に定めた日

運行時間は、交通事情などによりやむを得ない場合を除き 9:00 から 16:00 とし、交通事業者 2 社でそれぞれ 1 時間のお昼休憩を確保し、1 社あたり 1 日 6 時間運行とします。早朝や夕方以降のタクシーが稼働しやすい時間を避け、既存の交通事業者への影響が少ない時間帯に限定しています。なお、土日祝日・長期休暇を運休日とする理由も同様です。

⑤利用料金

利用料金は、以下の 2 パターンとします。

- (1) 1 人につき 1 ヶ月 3,500 円（消費税および地方消費税含む）の定額乗り放題制
- (2) 会員と一緒に利用する付き添い会員は、1 人につき 1 ヶ月 1,500 円（消費税および地方消費税含む）の定額乗り放題制

⑥予約のルール

利用者が「チョイソコおのくめ」を利用する場合、電話による予約が必要です。予約時には、乗降場所・希望時間などを伺います。電話以外による予約は受け付けず、また予約内容以外の乗降はできません。予約は、ネットヨタ瀬戸内株式会社モビリティ事業部で受け付けます。予約受付は2週間前から30分前までとし、予約受付時間は平日8:30から15:30までとします。

⑦車両

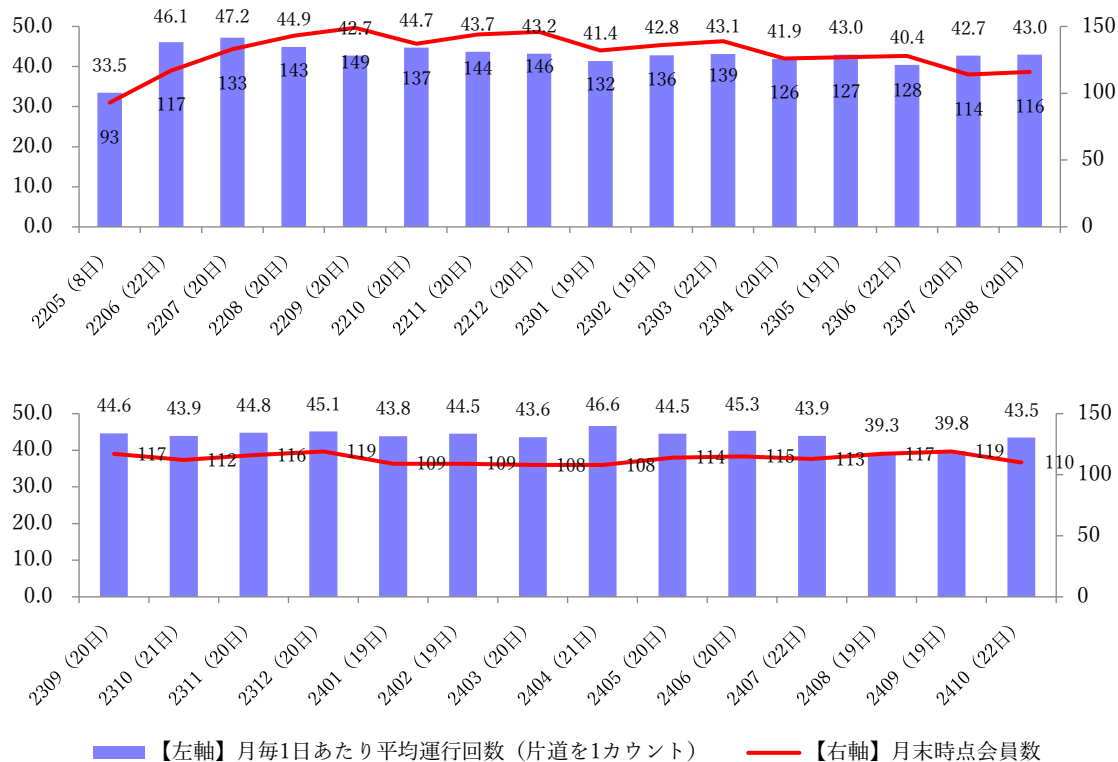
1台目の運行事業者は二神タクシー有限会社、2台目の運行事業者は四国交通株式会社とし、同社所有の車両(7人乗りノアウェルジョイン)を使用します。住民からの要望により3台目以降の車両を実装する場合、小野久米地区内およびその近隣のタクシー会社を運行事業者とし、車両については同様に当該運行事業者所有の車両を使用するものとします。

4. 運行状況

運行開始した2022年5月から2024年10月までの利用実績です。

図5

チョイソコおのくめ 平均運行回数と会員数の変化



5. チョイソコ導入前後の変化

チョイソコ導入後、利用している地域住民の心身にどのような変化があったのか調査を行いました。

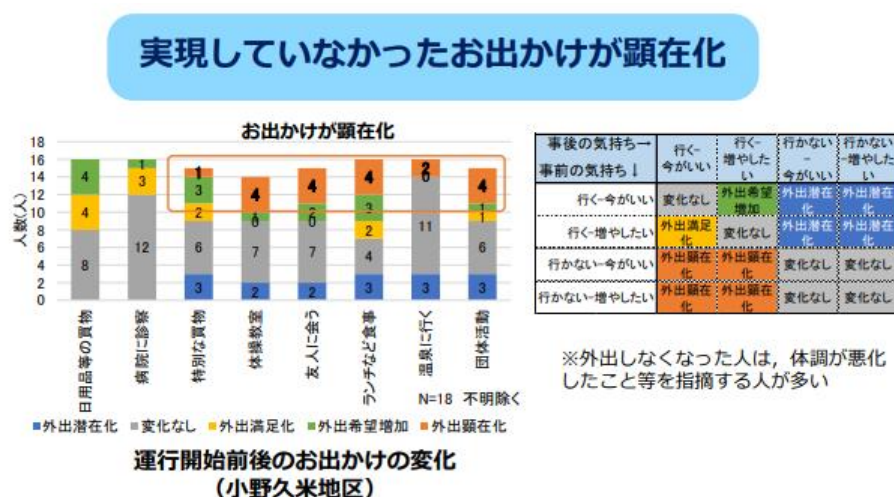
①お出かけニーズの顕在化

それぞれのお出かけ内容について普段から「行く」か「行かない」か、頻度は「今のままでいい」か「増やしたい」かを聞き、チョイソコを利用する前後での変化をまとめました。

その結果、チョイソコを利用する前は、あるお出かけ内容に対して「行かない」と答えていた方が、利用後には「行く」と回答したり、頻度は「今のままでいい」と答えていた方が利用後に「増やしたい」と回答するなど、外出意欲が高まっていることが分かりました。好きな時間に使える移動手段があることで、お出かけしたいというニーズが顕在化されたこととなります。

また、以前「行く」と回答していた方が「行かない」と回答するようになった声もありましたが、これらの方は体調の悪化などの背景がありました。

図 6



出所：2024年 JCOMM ポスター

外出による健康増進を目指した「おすそわけ交通」がもたらす効果

一目的指向型運営の重要性一

②フレイル予防

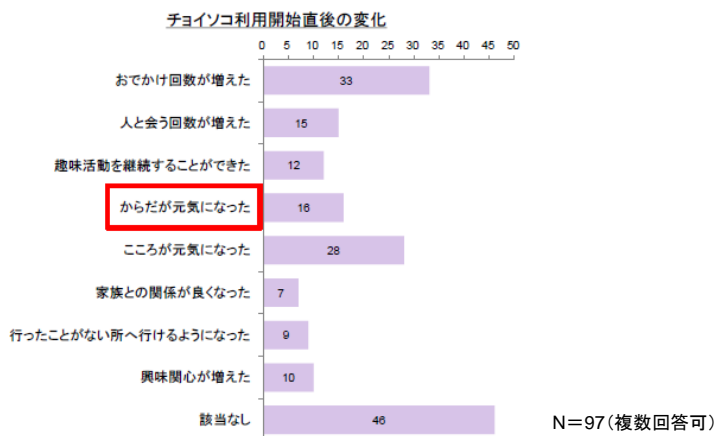
フレイル予防の観点から、利用前後の「身体フレイル」「心フレイル」についても変化が見られました。

②-1 身体フレイル

チョイソコ利用開始後の変化として、「からだ元気になった」と回答した人が16人いました。お出かけをする機会が増え自らの足で歩くことによってからだ元気になったと

実感している人がいるようです。

図 7



出所：NPO 法人まるっとおのくめ チョイソコおのくめ便り Vol.5

また、同じタイミングで、愛媛医療生協が作成しているフレイルチェックシートを使って身体能力調査テストを行いました。テストの結果を見ると、「気軽に外出できない」と回答していた人ほど身体テストの結果が悪いことが分かります。これは、「気軽に外出ができないから身体能力が衰えている」のか、「身体能力が衰えているから気軽に外出ができない」のか、はっきりとした関係性までは分かっていません。こちらは今後も引き続き調査を続け、関係性を探りたいと考えています。

図 8

愛媛医療生協 フレイルチェックシート

氏名				支部名	支部
性別	男・女	年齢	歳	場の名前	

1. 簡易チェック 【資料】リーフレット「リロコペニア・フレイルを予防して健康寿命を延ばそう」

□リーフレットを読んで、フレイルについて知ろう。

□3分でわかるフレイルチェックシート：自分のフレイルタイプを理解し、予防改善に取り組みよう。

あなたのフレイルタイプは？(該当に○印を/複数可)

①身体的フレイル ②オーラルフレイル ③心理的・認知的フレイル ④社会的フレイル

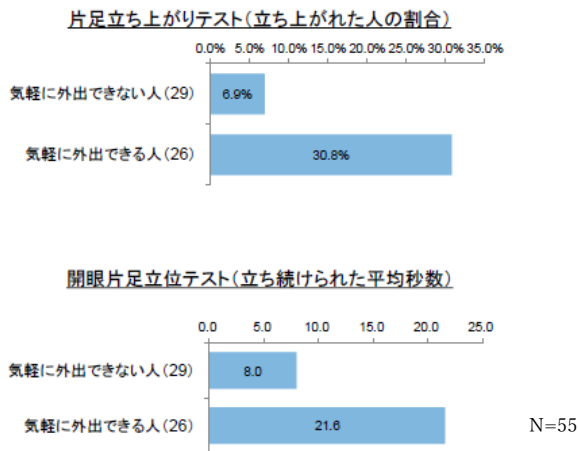
□指摘チェックテスト	評価基準	測定日(○で重む)			
		1	2	3	4
① ② ③ ④	① 聴めない・ ちやうど聴ける	/	/	/	/
	② 聴聞ができる	①・②	①・②	①・②	①・②

簡易チェックの次は、「総合チェック」にチャレンジしよう！

2. 総合チェック(5項目)

種目	評価基準	測定日(記録記入)			
		1	2	3	4
握力測定	男性30kg以上 女性20kg以上	kg	kg	kg	kg
開眼片脚立位テスト	59歳以下:120秒 60～69歳:60秒 70～79歳:30秒 80歳以上:15秒	秒	秒	秒	秒
2ステップテスト	□口毛度1 2ステップ時:1.3未満 □口毛度2 2ステップ時:1.1未満				
立ち上がりテスト	片足で立ち上がり、そのまゝ3秒立っていられる。	○・×	○・×	○・×	○・×
「バタカ」テスト	1秒間に6回以上	回	回	回	回

図 9

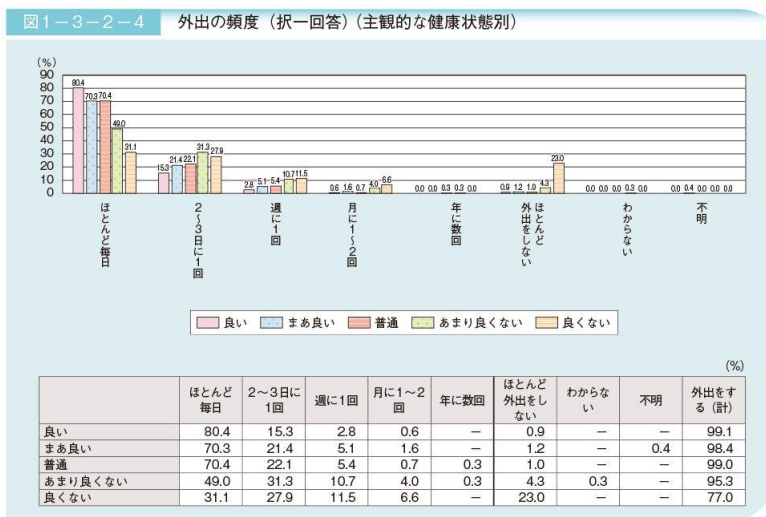


出所：2023年 JCOMM ポスター

地域主導型移動サービス導入前の調査からみた気軽に外出できないことの影響
 ～チョイソコおのくめ導入前の調査結果より～

なお、外出頻度が健康状態と関連していることについては既に様々な調査がされています。チョイソコで自由におでかけが出来るようになることで、健康維持やフレイル予防に繋がり、元気に歳をとれる地域に近づくのではないのでしょうか。

図 10



出所 内閣府 平成 30 年度版 高齢社会白書

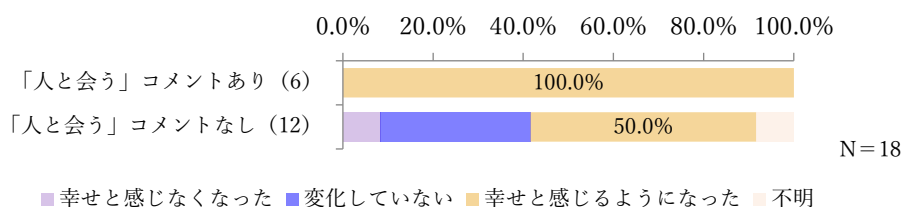
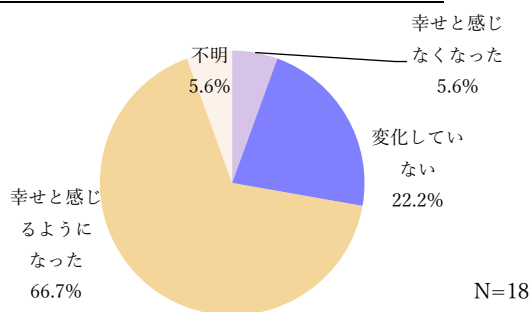
②-2 心のフレイル

身体フレイルと同様に、チョイソコ利用前後で心の状態にも変化が見られました。「こころが元気になった」と回答した数は身体の変化を感じた数よりも多く、「幸せと感じるようになった」と回答した人のうち、自由意見欄に「人と会う」といった記載がある

人については、全員が「幸せと感じるようになった」と回答していることが分かりました。

図 11

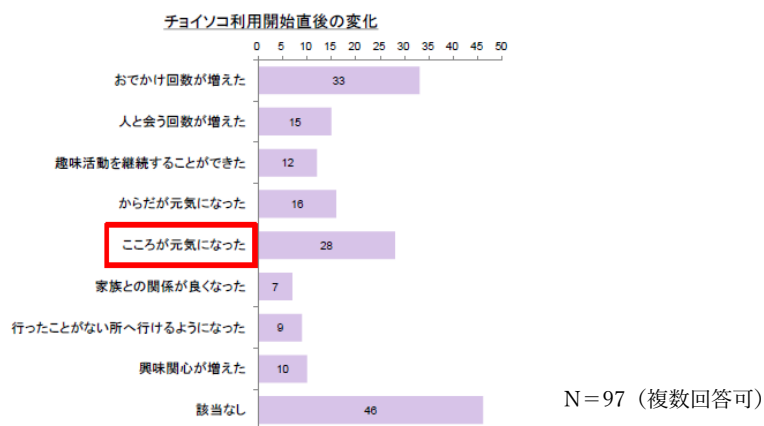
チョイソコ利用開始から1年半後時点での変化



【調査主体】 NPO 法人まるっとおのくめ／大阪工業大学 准教授 西堀泰英／愛媛大学／松山アーバンデザインセンター／ネットトヨタ瀬戸内株式会社

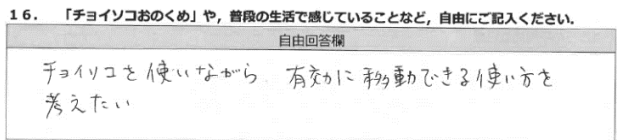
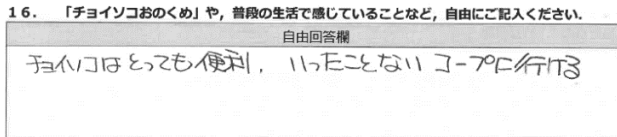
おでかけ先で人と会話をするのはもちろん、チョイソコ車内も交流の場のひとつになっており、利用者同士やドライバーとの会話を愉んでいる方もいらっしゃるようです。中には「ドライブ気分を味わえるし色々な人と会えるから遠くまで相乗りしてもいい」という利用者もあり、交流を愉んでいる様子が伺えます。

図 12



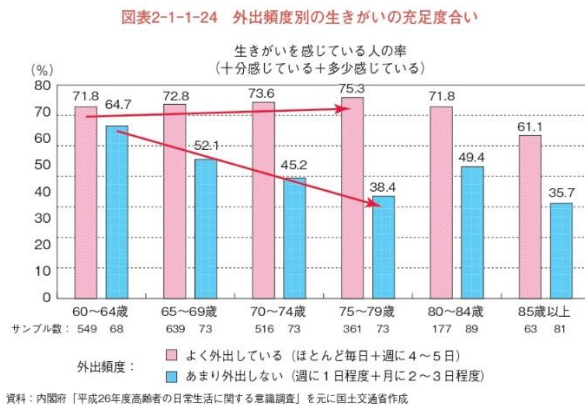
また、「自由に買い物に出かけられる」「これまで行ったことのなかった場所に行ける」といったことも、心の変化に繋がっていると考えられます。チョイソコは時間や行程を自由に決められることから、自分でスケジュールを考え、予約を取り、予約通りに行動することを求められ、これらを繰り返すことで「自分一人ですることがある」と喜びを感じる方もいるようです。

図 13



外出頻度と生きがいを感じる人の割合についても様々な調査がされています。

図 14



出所 国土交通省 令和2年度版 交通政策白書

②-3 社会的フレイル

活動を続けていると、「身体フレイル」「心フレイル」だけでなく、「社会的フレイル」にも影響を与えていることが分かりました。

チョイソコおのくめでは、単なる外出手段の提供だけではなく、定期的にイベントを開催する「外出機会の創出」にも力を入れています。チョイソコ運行開始時にはちょっとした顔見知りや知り合いができ、地域の住民同士のつながりが広がることを期待していましたが、実際にチョイソコの車内やお茶会イベントで頻りに顔を合わせる利用者同士が意気投合して連絡先を交換し、その後一緒にランチに出かけたという事例がありました。

↓梅本の里 いつものキッチンをお借りしたアンケート調査会



↓ロコモ K.O.南久米店 体操教室



↓松山学院高等学校とコラボ「マツガクカフェ」



↓協力事業者とコラボ「まるっとカフェ」



昨年には、いつもお茶会で集まる利用者数名で計画を立てて、自分たちで車を手配し、日帰りしまなみ旅行に行ったそうです。参加者の最高齢は90代の方で、チョイソコをきっかけにこのような機会が生まれなければ1人では旅行に行くことも難しかったであろうと考えられます。チョイソコをきっかけとした新たな人と人のつながりが生まれ、生きがいや愉しみに繋がっているようです。

↓日帰りしまなみ旅行



6. 県内外からの評価

松山市内で運行している地域主体のチョイソコのしくみは県内外を問わず多くの注目を集めており、各地から視察に訪れています。

○視察（一例）

- 2022年7月 愛媛県庁、今治市役所（チョイソコおのくめ）
- 2022年7月 中予地方局、大阪工業大学（チョイソコおのくめ）
- 2022年9月 和歌山大学（チョイソコおのくめ）
- 2022年10月 富山県氷見市（チョイソコおのくめ）
- 2022年10月 神奈川県横浜市（チョイソコおのくめ）
- 2023年9月 トヨタ自動車株式会社（チョイソコひさえだ）
- 2024年8月 京都府八幡市（チョイソコひさえだ）
- 2024年11月 富山県魚津市（チョイソコひさえだ、チョイソコおのくめ）



○日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）

このチョイソコのしくみは全国的に評価されており、2022年から3年連続でJCOMM賞を受賞しています。

※JCOMM賞は、国内のモビリティ・マネジメントの実務発展と技術発展を意図して設置されたものであり、国内の様々な取り組みや研究の中でも特に優秀なものを日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）実行委員会として選定し、その実現に貢献した個人・団体を表彰するものです。

2022年

第17回日本モビリティ・マネジメント会議

ポスター賞 受賞

利用者と地元企業が支える 住民参画型の 持続可能な移動の仕組みが実現した 秘訣とその効果 —チョイソコひさえだの実践—

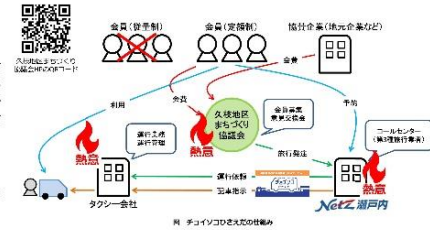
尾崎隆男・吉岡隆/久枝地区まちづくり協議会 大石一浩/ネットヨタ瀬戸内株式会社（連絡先：n-seto24[at]netz-setouchi.co.jp）
土井航/一般社団法人グローバル交流推進機構 西塚泰英/大阪工業大学 鈴木暲/東京理科大学

◆豊かな移動で豊かな暮らしを実現する 定額制送迎サービス「チョイソコひさえだ」

松山市久枝地区は、地区を囲むように鉄道が通り、地区を縦断するバス路線があるものの、公共交通の不便な地区が多く、買物や通院などの目的の外出が困難との声が上がっていた。そこで、久枝地区まちづくり協議会（まち協）とネットヨタ瀬戸内等が連携し、トヨタ・モビリティ基金の助成を得て移動問題を解決することを目的とし、定額制送迎サービス「チョイソコひさえだ」の運行を開始した。

◆公金投入ゼロで運営する仕組み

本取り組みの特徴は、行政の支援を得ることなく、利用者と地元企業が支えることで持続可能な運行を目指していることである。まち協が運行主体となり、予約配車はネットヨタ瀬戸内、運行業務と運行管理はタクシー会社が担う。この体制で運行するために様々な障害があったが、**熱意を持って取り組む**ことで乗り越えることができた。利用者は会員制とし、月額3,000円の定額乗り放題である。さらに地元ゆかりのある企業等（協力事業者）から協賛金を募ることで、利用者の会員だけでは賄えない運送コストを補填することとし、公金投入ゼロでの住民参画型の持続可能な運営を目指した。



◆利用者の評価は良好！しかも公金投入ゼロを達成！

2021年1月から無償実証実験を開始し、同年7月から有償運行を開始した。会員や協力事業者は順調に増加し、2022年4月1日時点で会員数83人、協力事業者は56社（協賛金額609万円/年）である。2021年度は公金を投入しない運営を達成した。予約の際等に利用者と会話や交流を行うことで、ピーク平準化や乗合率向上のための提案ができる良好な関係を作れた。

2022年3月では日平均25回（553回/22日）の利用があった。利用者50人への聞き取り調査から、**3割の方が外出回数が増えた**と回答し、その外出目的は買い物だけでなく友人とのカラオケなどの楽しみの活動など多様な移動が実現するなど、定額制にした効果を確認できた。



◆久枝モデル実現の 秘訣

- ★自治会起点で熱意を持って取組んだこと
地元の希望に対しては各方向で理解が得られやすい
- ★月額3千円の定額制としたこと
お金を気にせず何度も利用できる。お昼打ち感
- ★地元企業等に協賛を依頼したこと
地域に貢献できることが何かを企業等に考えてもらった
- ★利用者自らの運営を実現できたこと
運行と予約受付が密に連携し、希望には迅速に対応
- ★利用者に提案できる関係を作れたこと
乗合利用の推奨や10分程度の時間差を提案するノウハウ

◆より多くの地区での 「豊かな暮らし」の実現に向けて

まち協が主体となり、利用者の会員と協力事業者の協賛金で運送コストを賄う持続可能な移動の仕組みが実現した秘訣は、地元が熱意を持って取り組むことで、運行事業者や協力事業者の理解と協力や、利用者の支持を得られたことなどが挙げられる。

定額制にしたことで買物や楽しみの活動等の多様な外出が増加し、「豊かな暮らし」を実現するなどの効果も確認できた。地元の熱意により実現したこの移動の仕組みを「久枝モデル」とし、他の地域にも展開する計画である。

謝辞：実証実験の実施にはトヨタ・モビリティ基金の支援をいただきました。ここに改めてお礼申し上げます。

7. まとめ

チョイソコは「自分たちの地域は自分たちでよくしよう」という想いの基、地域主体で進んでいったプロジェクトであり、試行錯誤しながら運営をしてきました。なかなか地域の中で理解を得られなかったり、これまで馴染みのない仕組みに対する戸惑いの声を含めた様々な意見をいただいたりと歯痒い思いをしたこともあります。しかし、地域のためにと、諦めずに仲間たちと自らを奮い立たせてきました。おかげで徐々に地域に根付いていき、「チョイソコがある町 おのくめ」として浸透してきたように思います。また先述のようにチョイソコを通して確実にお出かけ総数は増え、フレイル予防につながり、地域が元気になったと強く感じます。何より地域が主体となって本気で取り組めばこのように課題解決ができるということを身をもって体感し、勇気と自信を持つことができました。

ここまでの取り組みを通して特に感じたこと。それは、問題・課題を明確にすること。目的を明確にすること。多様な人が自分事と捉えること。この3点です。幸い、ノウハウは蓄積することができています。実際に他の地域にも似た趣旨の取り組みが拡がりつつあります。必要に応じて、このノウハウを提供する用意もあります。

私たちはこれからも、「自分たちの地域は自分たちでよくしよう」という想いの基、取り組みを進めます。この取り組みが契機となり、おでかけに関する問題を自分事として捉える人の輪が、松山市内全域に拡がることに期待しています。